



TopEye

boys & girls photo magazine

2023

夏号

今年度も、夏・冬に
フォトコンチャレンジ!

もうすぐ
締切!!

第71回ニッコールフォトコンテスト 第4部

TopEye & kids

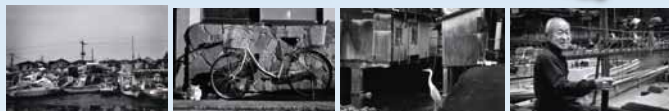
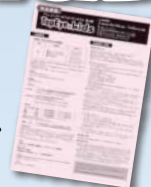
[応募締切] 2023年7月5日 必着!

[入賞発表] 『TopEye』2023年冬号誌上

応募票は同封のものを使うか、

下記のサイトからダウンロードしてください。

www.nikon-image.com/activity/nikkor/ncpc/



第70回 第4部 ニッコール大賞「私の町」 内田 莉奈

この秋
スタート

2023年度 TopEye

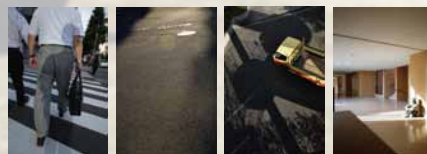
フォトコンテスト

11月から作品募集開始!

[応募期間] 2023年11月15日~2024年1月15日 必着!

[入賞発表] 『TopEye』2024年春号誌上

応募要項・応募用紙は次号に同封予定です。



2022年度
TopEye賞
「city」 中川 哲平

★今号は、TopEye賞連続受賞校の秘密に迫る!

——— 東京都立総合芸術高等学校写真部



Instagram



LINE

インスタ・LINE フォローしてね!

TopEyeの公式Instagramは上記のコンテストの入賞作品や取材のひとコマ、写真展案内などはきって更新中。また、ニコイメーキングジャパンの公式LINEはニコンの製品やキャンペーン、ニコプラザなどの最新情報をお届けします。ぜひフォローしてください!

「日常」を楽しみながら
のびのびとチャレンジを

いよいよ社会状況も改善の兆しが見え、旅行やイベントなどコロナ前の「日常」が戻ってきています。思うように撮れなかった残念な気持ちを、作品づくりで晴らしましょう。笑顔あふれる作品、元気や希望を感じる作品など、皆さんの感性をのびのびと活かした力作をお待ちしております!

TopEyeフォトコンテスト審査員

熊切 大輔 氏



東京都立総合芸術高等学校写真部に、迫ってみた!

2020年度、21年度、22年度。3回連続で同じ学校が「TopEye賞」受賞とくれば、編集部も「どんな学校なの??」と興味津々。
そこで突撃取材してきました!訪問したのは4月の新歓時期で、仮入部部員の撮影体験中。技術指導の先生と、中心として活動している2年生に話を聞きました。



この日撮影体験に参加した新入部員候補の皆さん

技術指導担当の
大久保先生

部を引っ張る6人の2年生!!

【活動DATA】

部員：2年生8人、1年生22人
活動日：毎週火曜
活動内容：個人撮影が主。活動日は部員間の作品鑑賞やコンテストの作品準備など。その他、文化祭で作品展示も。今年3年ぶりに都心で撮影会しました!
使用機材：基本的に自分のカメラ使用。持っていない部員には、コンテストの賞品でgetしたカメラを融通。

芸術高校ですが「特に技術は教えてません」

「具体的な撮影技術を教えることは、特にありません。露出やピントの確認をやる程度」と、技術指導の大久保先生。ただ、「生徒は普段から多くの美術作品を見て、さまざまなアイデアを頭にストックしています。それが写真にも活かされているのかも知れませんね」取材日にやっていた撮影体験会でも、後ろから見守るだけ。ただ、最初に少しだけ参加者にかけた言葉にも、ヒントがありそうです。
まとめると、「自ら動いて撮る」「作品を見せ合う」「芸術的な引き出しを増やす」あたりがヒケツかも?

写真は、前に出て撮らないと始まらないよ!

撮るポジションに決まりはない。自分で決めよう!

顧問の三好先生 / 副顧問の松岡先生

学校敷地内のいろんな場所でモデル撮影。
(写真は当日の作品から)



モデルは演劇部の山本くん。結構いい動きしてました。

平田さん
頼りになるしっかり者。お出かけ撮影派。

中川くん
「アイデアが予測不能」と話題の今年度部長!

鎌谷さん
学力は超進学校レベル。13歳の弟が専属モデル。

鎌谷さん
「誰にでも同じように接する」と信頼度高し!

構想図



大輪くん
人格はホンワカ、写真はカッコよく。自転車に興味。

部長考案、部のマスコット「写真ネコ」自由だ!

個性派揃いだが、仲いいぞ!

撮影は活動日以外に、それぞれ自由にやるそうです。でも、お互いの人となりはよく知っている感じ。普段からリスペクトし合いながら、作品にも意見し合う様子が思い浮かびますね。活動日には、各部員の写真をモニターに映し出してレビュー。大画面で細部を確認したり、アイデア交換したり。特にコロナ以降は、部でまとまって撮影に行く機会がなく、この春ようやく銀座で撮影会をやったそうです。今は某コンテスト向けの作品作りの時期とか。頑張って、いい作品を生み出してほしい!!



ゆるい感じで楽しみながら、雑談っぽく意見交換。



佐藤さん
鋭い意見を言うまとめ役。推し被写体は、牛。



クラウドに部員の写真をアップしてアイデア共有。

@銀座撮影会

4月、先輩にモデルを頼んで撮影会。

過去の「TopEye」も掲示していただきました! Thank you!

TopEye賞受賞者、作品を語る!



中川 哲平くん

週末によく、ふらりと街へ撮影に出かけます。この作品もそうして撮った中から「光」に着目した写真を組み合わせ、都市の一部である自分を表現しました。森山大道さんの「あれこれ考えずたくさん撮れ」に感銘を受け、実践しています。

2022年度
TopEye賞

「city」(2023年春号掲載)



1. 新宿。ノーファインダーで撮りまくり、自分の影がいい感じに入った1枚をセレクト。
2. 組写真にする時、何も写っていない1枚を入れて流れを整えました。
3. お台場で、影を撮っていたら偶然車が来ました。
4. 学校での自撮り。光が斜めに射す早朝を選びました。



竹末 小晴さん 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科1年

美術の課題で、「Me」をテーマに制作した写真集がベースです。20枚ほどの中から選ぶうち、気づかなかった自分の感情やこだわりが見えてきて「秘密」というタイトルが浮かび、それを道しるべに、他のパリエーションも含めてさらに選んでいきました。

2021年度
TopEye賞

「秘密」(2022年春号掲載)



1. 偶然見かけた河川敷の風景が気に入って、後日ロケ。
2. 父に堤防に立ってもらい撮影。単調にならないよう、坂のように少し傾けました。
3. 通りがかりの公園で「あいつ、いいなあ」と思ってツーショット。
4. 祖父の家の屋根。積乱雲を追いかけ、屋根に登って撮影。



松崎 柚さん 多摩美術大学統合デザイン学科1年

TopEye出品の目的で、栃木県の渡良瀬遊水地で撮影。「冬らしい風景」をテーマに「空を広くとる」「動きを感じない構図」「水平・垂直」を意識し、300枚くらい撮った中の3枚です。やってみたいかったモノクロ変換も「冬」の表現にはまりました。

2020年度
TopEye賞

「冬」(2021年春号掲載)



1. 木に枯れ草が絡んで冬山のように見える部分を切り取りました。
2. 父に堤防に立ってもらい撮影。単調にならないよう、坂のように少し傾けました。
3. 広い水面の中で、葎が密な部分とまばらな部分のバランスを考えました。

取材あとがき

みんなが「自分」をしっかり持っている感じと、お互いを認め合う仲間感が気持ちいい写真部でした。それぞれ独自の視点で作品に表現し、意見交換で磨き合うことが、力のある写真につながるのかな。もちろん、アートな環境もしっかり肥やしにして。この先も、どんな写真を見せてくれるのか、楽しみです!

元気な先輩に出会いたい!

TopEye

OB/OG訪問!

SENPAI
file.25

写真家
岡崎 ひなたさん



「AM 7:30」で第194回 TopEye賞受賞
〔TopEye〕2020年2-3月号掲載



故郷と向き合った作品「水面にカゲロウ」で第25回
写真「1_WALL」グランプリ受賞(2022年)

和歌山県立神島高等学校写真部OG
日本写真映像専門学校 卒
2022年 第25回写真「1_WALL」グランプリ 他 受賞多数
写真塾アトリエッペンバッカー所属
Instagram: @okazakihinata
Twitter: @okazakihinata_

写真を通じた様々な人との出会いが自分を成長させてくれたと感じる岡崎さん。若手アーティストの登竜門「1_WALL」のグランプリを最年少で受賞し、この5・6月に東京で個展を開催!

初めての人との出会いが楽しい!

中三の頃、父のカメラをいじってみたことが、高校の部活選びのきっかけになりました。知らない人との出会いがとても楽しく、いろんな場所をたくさん歩いて、出会った人と話しながら撮り続けました。

TopEye賞の作品も、もともと子供が大好きなので、一緒に遊びながら撮った中の4枚です。被写体になってくれた人や仲間、先生と交わした話が自分の中に蓄積され、その後の作品づくりや何か決断をする時のヒントになることも少なくありません。

「自分しかできないことが写真で見つかるかも」

部活を楽しむ一方で、好きな写真集に書かれている作家の言葉や、コンテストなどで出会った写真

家の語る言葉への憧れがあり、高二の頃から「写真家になりたい」と思い始めました。でも現実的には普通に就職した方が…と高三の冬まで悩み、親や顧問の先生と相談。「写真で自分にしかできないことが見つかるかもしれないし、好きなら続けてみたら」と背中を押され、大阪の写真専門学校に進みました。

故郷を離れて「変化と不変」に向き合う

高校の頃は、いいビジュアルを集める感覚で撮るだけでしたが、進学した学校で「写真とは何か」を問う授業があり、「世界に何かを伝える視覚的言語」という考え方を初めて意識しました。では、自分は何を伝えたいのだろう? そこから考え始めたのが「変化と不変」というテーマです。

今住んでいる大阪と、地元和歌山の暮らしは大きく違います。でも都市だって、元は私の故郷と同様だったはず。なぜ変化したのか、変わらないもの



アートプロジェクト「ARTAOITA」に参加し、フランスのアルル国際写真祭で作品を展示(2022年)

は何なのか。今回の個展開催につながった「1_WALL」の受賞作品のテーマも、それを考えながら撮り集めた作品です。

まだまだ知りたい、体験したい!

今の目標は写真集を出すことです。でも、様々な写真集や展示を見たり、話を聞いたりして感じるのには、「自分はこの世界をまだまだ知らない」ということ。もっと多くの土地へ行き、体験を重ね、感じたことを作品にしていきたいと思っています。

専門学校で先生に教わり、今実感しているのは、写真って自分の体験が大事だということ。皆さんが友達や家族、出会った人々と過ごす時間や、一緒に笑ったり泣いたりして感じることは、きっと今後につながります。ぜひ大切にしてください。

東京・銀座で個展開催中!



岡崎ひなた展「空蝉ミ種子万里ヲ見タ。」
5月23日(火)～6月24日(土)

会場:ガーディアン・ガーデン
東京都中央区銀座7-3-5 ヒューリック銀座7丁目ビルB1F
東京メトロ「銀座」駅C2出口徒歩5分

活動レポート

東京都高等学校写真連盟主催 初心者研修会 4月29日(土) 9:30～13:00

会場:トキワ松学園中学校高等学校
撮影会:目黒区立すずめのお宿緑地公園
講師:林憲治氏、奥初起氏、他2人(日本写真芸術専門学校)

13校・85名の高校生が参加。初夏の爽やかな日差しの中、楽しみながら撮影を学びました!

今回のポイント

- 「アングル・ポジション・ディスタンスを意識しよう」
- 「縦位置・横位置で撮ろう」
- 「レンズの画角を変えて撮ろう」



最初に30分ほどのミニ講座。



美しい竹林や、江戸時代から残る古民家など魅力的な被写体たくさん。



撮った写真のアドバイスタイムも。

第47回 全国高等学校総合文化祭 2023 かがしま総文



開催期間:7月29日(土)～8月4日(金)(写真部門行事:7月30日～8月1日)
写真部門会場:かごしま県民交流センター(展示、開会式など)

今年の高総文祭は鹿児島で開催!撮影会は、野外アートを撮影できる「霧島アートの森」、桜島や錦江湾を望む「平川動物公園」で行われる予定です。ニコンブースでは先着順で粗品を配布します。ぜひお立ち寄りください!

2023kagoshima-soubun.jp

第47回 全国高等学校総合文化祭 写真部門優秀作品展

高総文祭の優秀作品を、今年もニコンプラザで一挙展示。高校生写真の今を見に行こう!

東京 8月17日(木)～8月28日(月)
ニコンプラザ東京 THE GALLERY

大阪 9月7日(木)～9月20日(水)
ニコンプラザ大阪 THE GALLERY

※両館とも 10:30-18:30 日曜休館 最終日は15:00まで

「TopEye」へのお問い合わせはこちらまで。

ニコントップアイ編集部 (株式会社 ニコン イメージング ジャパン)

E-mail: topeye@nikon.com
TEL: 03-6718-3018

次号は11月15日発行予定です!
第71回ニッコールフォトコンテスト
「TopEye&Kids」部門
受賞者&作品発表!!

